

Title	米原謙教授略歴および研究業績等一覧
Author(s)	
Citation	国際公共政策研究. 2013, 18(1)
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/50267
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

米原謙教授略歴および研究業績等一覧

経 歴

よね はら けん
米 原 謙

《略歴》

- 1948年11月 徳島市に生れる
1967年 4月 大阪大学法学部入学
1972年 3月 同卒業（法学士）
1972年 4月 大阪大学大学院法学研究科 博士前期課程入学
1974年 3月 同修了（法学修士）
1975年 4月 大阪大学大学院法学研究科 博士後期課程入学
1980年 3月 同単位取得退学

《職歴》

- 1980年 4月 下関市立大学経済学部講師
1982年 4月 同助教授
1989年 3月 同退職
1989年 4月 大阪大学教養部助教授
1994年 4月 大阪大学法学部助教授に配置換え
1994年 6月 大阪大学大学院国際公共政策研究科に配置換え
1998年 7月 同教授
2013年 3月 同退職

《他機関での研究および教育》

- 1984年10月～1985年 9月 パリ第4大学（ソルボンヌ）大学院博士課程（フランス政府給費留学生、D. E. A. en Philosophie を取得）
1991年 9月～1992年 2月 東京大学法学部（文部省内地研究員）
1995年 3月～1996年 1月 パリ政治学院（文部省在外研究員）
2007年 3月～同年 4月 北京外国語大学日本学研究中心（国際交流基金による派遣）
2010年 3月～同年 3月末 国立成功大学招聘教授（発展国際一流大学及頂尖研究中心計画）

《学会活動など》

所属学会：日本政治学会、政治思想学会、日本思想史学会、同時代史学会

1998～2010年 政治思想学会理事（2008～2010年は代表理事）

2010～2012年 日本思想史学会理事

2004～2010年 日本学術会議連携会員（政治学委員会）

2011～2012年度 日本学術振興会科学研究費専門委員（政治学）

《主要業績》

I. 著書および訳書

1. 『日本近代思想と中江兆民』新評論、1986年10月（初版修正版、2002年12月）、222頁
2. 『十八世紀ヨーロッパ思想』（ポール・アザール著、小笠原弘親ほか4氏と共訳、第2部第1～3章及び第7～9章を担当）行人社、1987年1月、478頁
3. 『近代日本政治思想の座標』（宮本盛太郎編、第1、2、3章を担当、12～85頁）有斐閣、1987年11月、290頁
4. 『兆民とその時代』昭和堂、1989年9月、301頁
5. 『政治思想史の方法』（小笠原弘親、飯島昇藏編、第1章を担当）早稲田大学出版部、1990年4月、244頁
6. 『日本の政治を考える』（土居充夫、山口裕司との共著、第3編を担当、181～274頁）法律文化社、1992年5月（増補版、1993年）、310頁
7. 『植木枝盛—民権青年の自我表現』中公新書、1992年8月（電子書籍・中公eブックスとして復刊、2003年10月）、223頁
8. 『日本的「近代」への問い—思想史としての戦後政治』新評論、1995年3月、212頁
9. 『政治と市民の現在』（土居充夫との共編著、第1編第1章を担当、3～37頁）法律文化社、1995年11月、248頁
10. 『近代日本政治思想史』（西田毅編、第3章を担当、87～129頁）ナカニシヤ出版、1998年3月、317頁
11. 『兆民をひらく—明治近代の〈夢〉を求めて』（井田進也編、拙稿2編を収録、242～276頁、319～364頁）光芒社、2001年12月、502頁
12. 『近代日本のアイデンティティと政治』ミネルヴァ書房、2002年4月、243頁
13. 『政治思想史』〈講座 政治学II〉（千葉眞編、第8章を担当、235～269頁）三嶺書房、2002年10月、272頁
14. 『徳富蘇峰—日本ナショナリズムの軌跡』中公新書、2003年8月、258頁
15. 『日本社会党—戦後革新の思想と行動』（山口二郎・石川真澄編、第1章を担当、1～27頁）日本経済評論社、2003年10月、247頁

16. 『日本政治——過去と現在の対話』（多胡圭一編、第1章を担当、7～28頁）大阪大学出版会、2005年10月、312頁
17. 『知識人から考える公共性』〈公共哲学17〉（平石直昭・金泰昌編、特論1「自由民権運動と公共世界」を執筆、297～314頁）東京大学出版会、2006年3月、360頁
18. 『日本政治思想』〈ミネルヴァ政治学叢書3〉ミネルヴァ書房、2007年3月、308頁
19. 『ナショナリズムの時代精神——幕末から冷戦後まで』（長妻三佐雄との共編著、第1部第6章を執筆、120-143頁）萌書房、2009年11月、283頁
20. 『東アジアのナショナリズムと近代』（金鳳珍・區建英との共著、序章・第1章・第4章・終章を担当、7～49頁、144～197頁、291～310頁）大阪大学出版会、2011年7月、345頁

II. 学術論文

1. 「日本における近代保守主義の成立とその特質——陸羯南の立憲政論」、『阪大法学』第104号、113-156頁、1977年11月
2. 「西周における啓蒙思想の形成と展開——明治啓蒙思想研究序説（1）」、『阪大法学』第108号、63-104頁、1978年11月
3. 「加藤弘之の哲学と政治思想——明治啓蒙思想研究序説（2）」、『阪大法学』第114号、109-136頁、1980年3月
4. 「「東洋のルソー」考」、『阪大法学』第116・117号、361-387頁、1981年3月
5. 「中江兆民と明治啓蒙思想」、『下関市立大学論集』第25巻第1号、117-139頁、1981年6月
6. 「福沢諭吉における文明論の展開」、『下関市立大学論集』第27巻第2号、155-191頁、1983年9月
7. 「方法としての中江兆民」、『下関市立大学論集』第27巻第3号、1-25頁、1984年1月
8. 「フランス時代の中江兆民」、『下関市立大学論集』第29巻第3号、1-47頁、1986年1月
9. 'L'introduction de la pensée de J.=J. Rousseau au Japon,' 『下関市立大学論集』第29巻第3号、111-127頁、1986年1月
10. 「『三酔人経綸問答』を読む——奇人伝説とエクリチュール」、『下関市立大学論集』第30巻第2号、35-70頁、1986年9月
11. 「戦後主体性論の境位」、『阪大法学』第42巻第2・3号、541-559頁、1992年11月
12. 「模倣と反逆——植木枝盛の政治思想」、『阪大法学』第43巻第1号、69-164頁、1993年7月
13. 「第一次世界大戦と石川三四郎——亡命アナキストの思想的軌跡」、『阪大法学』第46巻第2号、199-320頁、1996年6月
14. 「フランス人アナキストの中国二五年——ジャック・ルクリュエ小伝」、『阪大法学』第47巻第2号、263-300頁、1997年6月
15. 'Nakae Chomin et la modernisation japonaise,' 『国際公共政策研究』第4巻第1号、101-111頁、

1999年9月

16. 「「膨脹」する「大日本」——日清戦争後の徳富蘇峰」、『阪大法学』第50巻第4号、561-591頁、2000年11月
17. 「初期蘇峰と「平民主義」の挫折」、『中谷猛教授退職記念論文集』〈立命館法学 2000年第6号〉、2500-2522頁、2001年3月
18. 「国体論と市民宗教のあいだ——近代日本のナショナリティをめぐる言説」、『法学雑誌』（大阪市立大学）第48巻第1号、101-142頁、2001年8月
19. 「丸山眞男と社会主義——いくつかの断面」、『思想』第988号、120-145頁、2006年8月
20. 「近代国体論の誕生——幕末政治思想の一断面」、『政治思想研究』第8号、282-307頁、2008年5月
21. 「神々の欲望と秩序——幕末国学の国体論」、『阪大法学』第60巻第1号、1-40頁、2010年5月
22. 「「地球上絶無稀有ノ国体」を護持するために——岩倉具視の構想」、『阪大法学』第61巻第6号、1-53頁、2012年3月
23. 「裕仁皇太子の台湾行啓——「一視同仁」の演出」、『阪大法学』第62巻第6号、261-305頁、2013年3月
24. 「日本民族主義中的“美国身影”」、『南開日本研究』2012、166~188頁、2013年4月

Ⅲ. その他の論文

1. 「儒教と天賦人權論」、中公バックス『日本の名著』34、付録、1984年7月
2. 「東洋のルソー・中江兆民」、『新評論』No.36、1986年9月
3. 「エミール・アコラースのこと」、『書齋の窓』第367号、53-59頁、1987年9月号
4. 「フランス時代の中江兆民」、『社会思想史研究』No.12、1988年9月
5. 「植木枝盛『閲讀書日記』解題（上）」、『阪大法学』第42巻第1号、307-333頁、1992年8月
6. 「政治において理想主義とは何か——日本社会党のために」、『世界』1994年7月号、57-66頁
7. 「石川三四郎の足跡を訪ねて——ドルドーニュ県ドム町」、『書齋の窓』第455号、47-54頁、1996年6月号
8. 「石川三四郎の亡命を助けたベルギー外交官」（上）（下）、『書齋の窓』第462号（54-57頁）、463号（48-50頁）、1997年3、4月号
9. 「ブリュッセルの石川三四郎」（1）（2）（3）（4）、『書齋の窓』第467号（44-48頁）、468号（61-65頁）、469号（60-63頁）、470号（53-57頁）、1997年9、10、11、12月号
10. 「亡命時代の石川三四郎——その周辺」、『阪大法学』第48巻第3号、829-855頁、1998年8月
11. 「明治初期の政教関係」、『東洋学術研究』第39巻第1号、191-211頁、2000年5月
12. 周恩来「フランス勤工儉学生の大波乱」（上）（下）（申春野との共訳）、『国際公共政策研究』第5巻第1号（355-373頁）、第5巻第2号（163-178頁）、2000年11月、2001年4月

13. 「兆民が対峙したもの」、『初期社会主義研究』第14号、11-15頁、2001年12月
14. 「国家主義を超えて」、『初期社会主義研究』第17号、16-19頁、2004年11月
15. 「石川三四郎研究のひとつの欠落」、『トスキナア』第3号、131-133頁、2006年4月
16. 「福澤諭吉の国体論—その背景」、『適塾』NO.39、適塾記念会、27-33頁、2006年12月
17. 「日本ナショナリズムにおける“アメリカの影”」、『日本思想史学』第41号、3-12頁、2009年9月
18. 「ジャーナリストとしての福澤諭吉と徳富蘇峰」、『福澤手帖』第147号、2010年12月20日
19. 「現代日本的民族主義」、『日本学刊』（中国社会科学院日本研究所）2013年第3期、23-40頁

IV. 書評・事典の項目など

1. 「書評 井田進也『中江兆民のフランス』」、『下関市立大学論集』第31巻第3号、23-37頁、1988年1月
2. 「植木枝盛日記」、『歴史読本』特別増刊・事典シリーズ〈第21号〉日本「日記」総覧、284-285頁、1994年3月
3. 「社会党の党内論争」「ベ平連と大学闘争」、『世界』臨時増刊「キーワード戦後日本政治50年」、34-35頁、112-113頁、1994年4月
4. 「批判的知性の稜線」、『政治思想学会会報』第5号、1997年10月
5. 「学会展望」（政治思想史／日本およびアジアの部）、『日本政治学会年報』1998年度、1999年1月
6. 「政治の言葉と文化接触—山田央子『明治政党論史』を読んで」、『創文』第409号、23-26頁、1999年5月号
7. 「分裂した丸山像を透視する視点は存在しないのか」、『図書新聞』1999年6月12日号
8. 「飛鳥井雅道著『中江兆民』」、『週刊読書人』1999年10月29日号
9. 「ナショナリズムとアイデンティティ」、『読書探検』No.31、1999年10月25日
10. 「「戦闘的自由主義者」の栄光と挫折」、『図書新聞』2001年4月28日号
11. 「一年有半・続一年有半」「中江兆民」「明六雑誌」「明六社」、『日本思想史辞典』ぺりかん社、2001年6月
12. 「大隅和男・平石直昭編『思想史家 丸山眞男論』」（書評）、『図書新聞』2002年10月5日号
13. 「学会展望」（政治思想／日本・東アジアの部）、『日本政治学会年報』2002年度、2002年12月
14. 「『植木枝盛』」、『日本史文献事典』弘文堂、2003年11月
15. 「『東アジアにおける公共知の創出』」、『公共的良識人』2004年1月1日
16. 「伊藤孝雄著『瀧川幸辰』を読む」、『図書新聞』第2670号、2004年3月20日
17. 「ゴベール」、『日本アナキズム運動人名事典』ばる出版、2004年4月
18. 「西田毅他編『民友社とその時代』」、『日本歴史』第686号、2005年7月

19. 「犬塚孝明編『明治国家の政策と思想』、『ヒストリア』第202号、2006年11月
20. 「解説」『徳富蘇峰終戦後日記Ⅱ—『頑蘇夢日記』続編』講談社、415～430頁、2006年12月
21. 「松田宏一郎『陸羯南』、『日本歴史』第741号、2010年2月
22. 「マルクス主義の世紀を生きた哲学者の生涯」(岩倉博『ある哲学者の軌跡—古在由重と仲間たち』の書評)、『図書新聞』3100号、2013年3月2日

V. コラム

1. 「思い出すことなど」、『下関市立大学広報』No.3、1989年5月25日
2. 「政権交代への展望は開かれたか」、『OSIPP NEWS LETTER』No.15、2000年8月
3. 「政治家兆民—その情熱のゆくえ」、『彷徨月刊』、2-4頁、2001年12月
4. 「政治家のふたつの顔」、『阪大ニューズレター』No.16、2002年6月
5. 「第3回日韓共同学術会議に参加して」、『政治思想学会会報』第19号、13-15頁、2004年12月
6. 「記憶の断片から」、『藤原保信著作集』第9巻「付録」、新評論、2005年4月
7. 「「公共人間」としての中江兆民—その可能性を問う」、『公共的良識人』第139号、2007年12月
8. 「徳富蘇峰」①②③、『中外日報』2009年2月10日、17日、19日、「近代の肖像」第280～282回
9. 「中江兆民の自由民権論」「徳富蘇峰の平民主義」、『大法輪』2010年8月
10. 「ふたりの「手の人」—徳富蘇峰と後藤新平」、『機』No.221、2010年8月

VI. 座談会・コメントなど

1. 「「社会党的なるもの」の行方」(新川敏光、新藤宗幸両氏との座談会)、『世界』1996年12月号、41-52頁
2. 「日本における西洋政治思想研究の現状と課題」(座談会)、『政治思想研究』創刊号、55-81頁、2000年5月
3. 「日本における日本政治思想研究の現状と課題」(座談会)、『政治思想研究』第2号、193-229頁、2002年5月
4. 「国体論と自我の相克」(インタビュー)、『図書新聞』2003年3月8日号
5. 「総選挙を振り返って」(談)、『産経新聞』大阪北河内版、2003年11月11日
6. 西尾勝・小林正弥・金泰昌編『自治から考える公共性』〈公共哲学11〉、東京大学出版会、197頁、2004年7月
7. 宮本久雄・金泰昌編『文化と芸能から考える公共性』〈公共哲学15〉、東京大学出版会、144頁、2004年11月
8. 丸山眞男『日本政治思想史研究』、『OSIPP NEWS LETTER』No.32、「私の一冊」の欄、2004年秋号

9. 稲垣久和・金泰昌編『宗教から考える公共性』〈公共哲学16〉、東京大学出版会、58～61頁、143～4頁、2006年2月
10. 山脇直司・金泰昌編『組織・経営から考える公共性』〈公共哲学18〉、東京大学出版会、36頁、71～73頁、2006年5月
11. 同時代史学会編『日中韓ナショナリズムの同時代史』、日本経済評論社、61～69頁、2006年12月
12. 宮本久雄・金泰昌編『他者との出会い』〈シリーズ物語り論1〉、東京大学出版会、74～75頁、245～246頁、2007年1月

Ⅶ. 学会発表など

1. 「フランス時代の中江兆民」 社会思想史学会、1987年10月
2. 「自由民権思想における「主体」意識の形成—兆民と枝盛の場合」 日本政治学会、1991年10月
3. 「戦後日本の平和論」 大阪大学放送講座、1992年11月、KBS 京都ラジオ
4. 「戦後啓蒙の光と影」 政治思想学会、1993年5月、立命館大学
5. 'Nakae Chomin et la modernisation japonaise,' ボルドー第三大学主催シンポジウム「政治的普遍主義と文化的相対主義—日本の場合」、1997年3月
6. 「自由民権運動の再評価—「幸福」と「民権」を手がかりに」、日本政治学会、1997年10月
7. 「ナショナリティの再定義」〈司会〉、政治思想学会、1999年5月、京都大学
8. 「明治前期の政教関係」、(財)東洋哲学研究所、1999年7月
9. 「中江兆民と大阪」、大阪大学開放講座、1999年9月
10. 「国体論と市民宗教のあいだ—近代日本のナショナリティをめぐる」、政治思想学会、2002年5月26日、熊本大学
11. 「日本における文明開化論—福沢諭吉と中江兆民を中心に」、韓国・東洋政治思想史学会主催 国際学術大会、2003年3月28日～29日、梨花女子大学校、ソウル
12. 「幕末明治初期の国体論とキリスト教—日本政治思想における「自己」と「他者」」、第4回 グローカル公共哲学京都フォーラム、2003年5月17日～19日、国立京都国際会館
13. 「近代日本の「幸福」の概念」、第47回公共哲学京都フォーラム、2003年6月3～5日、リーガロイヤルホテル京都
14. 「日本型社会民主主義の形成と展開」、潮出版社研究会、2004年3月25日、ホテル・サンルート東京
15. 「日本ナショナリズムの読みかた」(プロジェクト科目のゲストスピーカー)、慶応義塾大学法学研究科、2004年5月27日
16. 「日本型社会民主主義の思想—その展開と挫折」、第3回韓日共同学術会議、2004年7月19日

日～20日、梨花女子大学校、ソウル

17. 「日中韓ナショナリズムの相克と東アジア」(コメンテーター)、同時代史学会、2005年12月4日、一橋大学
18. 「福澤諭吉：適塾時代とその後」、適塾の夕べ、2006年6月5日、適塾
19. 「三つの戦争とナショナル・アイデンティティの変容——日本の場合」、日中交流セミナー「ナショナル・アイデンティティをめぐる相克」、2006年8月2～3日、北京大学国際関係学院
20. 「近代日本のナショナル・アイデンティティ——徳富蘇峰を素材として」、韓国政治学会冬季大会、2006年12月8日、外交安保研究院、ソウル
21. 「日本の政党政治——過去と現在」、日本学特別講義、2007年4月12日、北京日本学研究センター
22. 「日本民族主義研究の現状と展望」、北京大学主催・国際シンポジウム「日本学研究：現状と展望」、2007年4月21～22日、北京大学百周年記念講堂
23. ワークショップ「近代東アジアの歴史とアイデンティティ」〈司会〉、2007年9月13～14日、ソウル大学校、奎章閣韓国学研究院
24. 「国民国家形成と公共性——今、なぜ中江兆民か」、第77回公共哲学京都フォーラム、2007年9月22～24日、神戸ポートピアホテル
25. 「四つの戦争と日本ナショナリズムの変容——徳富蘇峰を素材として」、日本政治学会、2007年10月6日、明治学院大学
26. 「東アジアの政治伝統と民族主義——過去・現在・未来」〈司会、討論〉、第7回韓国・日本政治思想学会共同学術会議、2008年6月20～21日、高麗大学校
27. 「日本ナショナリズムにおける“アメリカの影”」、日本思想史学会、2008年10月18日、愛知教育大学
28. 「幕末明治初期の国体論」、国際高等研究所研究プロジェクト「19世紀東アジアにおける国際秩序観の比較研究」、2009年3月5日～6日、国際高等研究所
29. 'Party Politics in Japan: Past and Present,' 国立成功大学政治学系、2009年5月19日、台南
30. 'Political Opinions in the Age of Globalization: the Case of Contemporary Japan,' 国際シンポジウム「民主鞏固與非政府組織」、2009年5月21日、中国文化大学、台北
31. 「日本の政治思想研究の動向と課題」、第2回韓国政治世界学術大会、2009年8月21日、SEOUL COEX Conference Center
32. 'Between America and Asia: Nationalism in Contemporary Japan,' International Conference 'East Asia as a Regional International Society,' 2010年5月3～4日、国立成功大学、台南
33. 「善き生と公共性」〈司会、討論〉、第9回韓国・日本政治思想学会共同学術会議、2010年7月2～3日、淑明女子大学校、ソウル
34. 「後藤新平と徳富蘇峰」、2010年度「後藤新平の会」シンポジウム「後藤新平と同時代人 Part

- 2]、2010年7月10日、日本プレスセンター
35. 論吉・兆民・蘇峰]、学術シンポジウム「ルソーと兆民をめぐる比較思想史」、2011年5月26日、中央大学文学部
 36. 「近代化とナショナリズムの政治思想」(討論)、政治思想学会、2011年5月29日、姫路獨協大学
 37. 「日本ナショナリズムと東アジア」、国際学術会議「東アジアの歴史と思想」、韓国政治思想学会・日本政治思想学会・成蹊大学アジア太平洋研究センター共催、2011年9月24～25日、成蹊大学
 38. 「現代日本のナショナリズム」、シンポジウム「中国と日本——その自画像と他画像」の基調講演、2012年11月17日、中国社会科学院日本研究所
 39. 「日本人はアジアをどのように見ていたか」、天津師範大学における公開講義、2012年11月18日
 40. 「日本ナショナリズムにおける“アメリカの影”」、南開大学における公開講義、2012年11月18日
 41. 「裕仁皇太子の台湾行啓——「国体」の演出」、中国文化大学・OSIPP 共催国際コンファランス「東亜諸国のナショナリズム——歴史と現状」、2012年11月22～23日、中国文化大学、台北

